

# 藤原興風の歌三首 — 藤原興風の古画にそえて —

高城 弘一 (竹苞)

Koichi (Chikuko) Takashiro

拙作の題材の和歌であるが、伝藤原行成筆『歌仙歌合』（藤原公任撰『三十人撰』所収の藤原興風詠三首である。ちなみに、『歌仙

歌合』は、「高野切第一種」系統といえよう。

この数年、古い歌仙絵にその歌仙の詠歌を書き組み合わせ、一つの作品となるような創作活動を行っている。『大東書道研究』では、第二十号（大東文化大学書道研究所、平成二十五年三月）において、「坂上是則の歌三首」を発表し、同第二十二号（同、平成二十七年三月）において、「齋宮女御の歌二首 — 齋宮女御の古画にそえて —」を発表した。引き続き、同第二十三号（同、平成二十八年三月）において、「小野小町の歌二首 — 小野小町の古画にそえて —」を発表した。

近時、江戸時代に書き描かれた歌仙絵粉本を一括で落手した。粉本は、基になる絵があり、着物の文様や色相などを書き込んでおく。場合によっては、着色したものもある。今般の古画もそのような状

態になっている。また、古人の書跡「十四番 藤原興風」も、そのまま残しておいた。

料紙は、この粉本から剥いだ裏打ち紙を直接使用した。これには、粉本本紙に発生したシミがそのまま残っているが、かえってこれを良しとし、表裏や天地を返すなどし、シミの配置が単純にならないようにした。あたかも、強いドーサを引いた加工紙のようなので、墨は多めに乗せた。潤濁・太細の変化をつけ、奥行きが出るようにし、さらに、散らし書きによって、余白の美を探索したのは常套手段。今回用の書き下ろし作品である。筆は、イタチ毛の柳葉筆（神技堂製「つきしぐれ」）で、墨は、「太極玄真」（油煙古墨）を用いた。落款印は、用いず、古歌を書くときの故実に従った。



45.5×27.8cm

【釈文】(右傍らは字母)  
 千起利介  
 ちきりけむ  
 所 支  
 こゝろそつらき  
 那者多  
 たなはたの  
 としに  
 日 多  
 ひとた  
 非 者  
 ひあふは  
 阿 可八  
 あふかは  
 (以下略)